戦争のメンタルヘルスへの影響を解明

長野県立こども病院　後藤隆之介

長野県立こども病院・東京大学医学部附属病院小児科の後藤隆之介医師、キーウ大学（ウクライナ）のIrina Pinchuk教授、ノルウェー科学技術大学（ノルウェー）のNorbert Skokauskas教授らの研究グループは、2022年から続くウクライナでの戦争の青年のメンタルヘルスへの影響を明らかにしました。この研究は小児医学研究振興財団、チェルノブイリ・福島医療基金の支援を受けて実施され、研究結果は米国の医学誌「JAMA Pediatrics」にて2024年3月25日に発表されました。

研究グループは戦争が長期化する中で、ウクライナの青年たちのメンタルヘルスを守ることを目的としたAdolescents of Ukraine During the Russian Invasion (AUDRI)プロジェクトを2022年に立ち上げ、その最初の取り組みとして2023年夏に8000名ほどのウクライナの15歳以上の青年を対象に戦争のメンタルヘルスへの影響を調査しました。オンラインで実施したアンケート結果をもとに主要な精神疾患のスクリーニングを行ったところ、約32%がうつ病、約18%が不安障害、約35%が心的外傷後ストレス障害(PTSD)のスクリーニング陽性となりました。これは他国の同年齢の各疾患の有病率に比べて非常に高い割合です。

また、特にウクライナ東部の地域で多くの青年が戦争にさらされました(**図**)。戦争にさらされたことによりこれらの疾患のスクリーニング陽性となる可能性がどの程度変化するか調べたところ、うつ病については約1.4倍、不安障害については約1.6倍、PTSDについては約1.4倍となる可能性が示唆されました。

戦争は怪我や死などの物理的な被害のみならず、心に大きな傷を残すと言えます。これらの悪影響は戦時中のみならず終戦後も続く可能性があり、研究グループは今後もさらなる調査・介入を行う予定です。

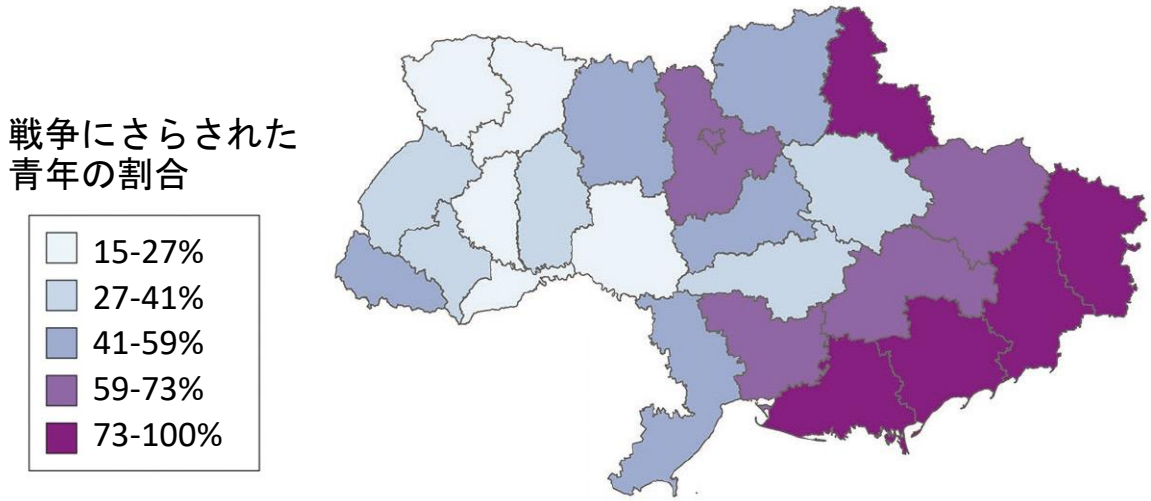

図. ウクライナ各地域の戦争にさらされた青年の割合

【論文タイトルと著者】

タイトル：Mental Health of Adolescents Exposed to the War in Ukraine

著 者：Ryunosuke Goto, Irina Pinchuk, Oleksiy Kolodezhny, Nataliia Pimenova, Yukiko Kano, Norbert Skokauskas

掲載誌：JAMA Pediatrics

doi:10.1001/jamapediatrics.2024.0295

【問い合わせ先】

長野県立こども病院・東京大学医学部附属病院小児科

後藤隆之介

rgoto@m.u-tokyo.ac.jp